

# 生野鉱山と鉱山まちの文化的景観 保存計画書

《概要版》

兵庫県朝来市

## 国の重要文化的景観の選定と保存活用を目指して

生野鉱山は中世から400年以上にわたって、日本及び世界経済を支えてきた鉱工業や生活文化が鉱山まちの文化的景観として息づいています。全国の多くの鉱山まちが閉山と同時に産業や人々の暮らしに終止符が打たれ廃墟への道をたどっていったなか、人々の暮らしが鉱工業と鉱山まち独特の生活文化が密接につながり維持されており、日本で唯一、中世から近現代までの鉱山技術史や鉱山生活史の変遷を証明できる「今も生きている鉱山まち」です。

朝来市では、貴重な財産であり、朝来市民の誇りである「生野鉱山と鉱山まちの文化的景観」を次世代へと継承し、魅力ある地域づくりと地域コミュニティの活性化を推進するため、国の重要文化的景観への選定を目指しています。

## 文化的景観とは？

文化的景観とは、地域の住民が日常生活や日々の生業において、地域独特の気候や土地の状況を利用して作り出されてきた景観地のうち、わが国民がどのような生活又は生業を営んできたのかを理解するために不可欠なものとしてされています。

みなさんの体験の中には「昔見たふるさとの風景が、いつの間にか失われてしまっていた。」というようなことがないでしょうか？

平成16年に文化財保護法が改正され、新たに「文化的景観」が文化財の種別に位置づけられ、地域の生活・生業に根ざした景観の文化的な価値を評価し、地域で護り、次世代へと受け継いでいく保護制度ができました。

平成25年3月現在、全国で35件が重要文化的景観に選定されています。

## 重要文化的景観保護制度



【平成25年3月】

兵庫県朝来市教育委員会社会教育課

〒679-3431 兵庫県朝来市新井73-1 TEL 079-677-2116

冊数25.3/28,000  
この図解は複製に際しリンク先を併用しています。



## 生野鉱山と鉱山まちの文化的景観としての価値

明治8年(1875)の生野町絵図

生野鉱山は、銀山旧記によると天正11年(1542)に城山の南表で銀鉱脈(蛇間歩)が発見されたのを契機として、石見銀山の技術者によって伝えられた鉱山技術により、本格的な銀山の開発が始まりました。織田・豊臣時代の最盛期を経て江戸時代に鉱山まちとしての形が整いました。

明治に入ると我が国初の官営鉱山となり、お雇い外国人を招き近代化モデル鉱山として世界に誇る鉱山開発が進められ、昭和48年の閉山まで我が国の鉱工業の一翼を担いました。閉山後も国内唯一の錫製錬工場や昭和期の巨大機械工場が稼働し、その形態を変えながら現在も鉱工業が営まれています。



明治の生野鉱山本部全景

### 歴史的な鉱工業都市の構造

生野は、400年以上にわたり採掘や製錬、加工、運輸といった鉱業に加え、代官所や番所といった統治機能、行政機能、商業や流通といった消費的機能、労働者をはじめとする居住機能など、歴史的な鉱山まちの機能が、ほとんど位置を変えないまま持続しています。

国内の多くの鉱山まちが消えていったなかで、生野では、鉱工業の営み、歴史文化、人々の豊かな暮らしが今なお引き継がれ、我が国で唯一、中世から近現代までの鉱工業技術史及び鉱山生活史の変遷を知ることのできる貴重な存在です。

### 鉱山を支えてきた自然

生野鉱山は、熱水が岩石中の割れ目に入ることによって様々な鉱石鉱物を生み出した多金属熱水鉱脈鉱床で、荒々しい岩肌に露出する鉱脈や掘り割り、間歩などが見られ、ヘビノネゴザやハクサンハタザオなどの鉱山指標植物やヒカゲツツジ群落など鉱山独特の植物がみられます。また御林、備林として製錬などに使用する木炭や鉱山用資材などを供給した周辺の山林や、鉱

工業用水や生活用水として利用されてきた市川など、鉱山とそこに暮らす人々を支えてきた貴重な自然景観が存在しています。

かつて製錬の近代化は、大量の排煙を生じることとなり煙害によって鉱山周辺の山々はハゲ山となりました。また、鉱石の大規模処理に伴う鉱滓は、周辺の谷を埋めて巨大なズリ山となりましたが、積極的な公害対策や計画的な植林などの努力によって、かつての美しい緑が甦ってきています。



慶寿の堀り切り

### 鉱山文化と人々の暮らし

長い歴史のなかで、流通・往來が頻繁な鉱山まちは、衣食住や言語など様々な分野で多様な

文化が混合することにより、山神祭りや生野踊りなど独特の伝統文化が形成されてきました。

生野銀山絵巻には、鉱山での過酷な労働以外にも、女性たちののどかな休息や子育てなどの様子が描かれており、質素ながらも豊かな暮らしを伺うことができます。

明治になると、西洋文化を積極的に取り入れた暮らしが急速に浸透し、衣食住全般について都会と同様のハイカラ文化が取り入れられ、都市的な暮らしは人々に進取の気性をもたらしました。

閉山後の現在も、鉱工業と鉱山まち独特の生活文化とが緊密につながり鉱山まち独特の人々の営みが継続されています。



生野銀山絵巻より

# 生野鉱山と鉱山まちの文化的景観の範囲

生野鉱山と鉱山まちの文化的景観の範囲は、近世の「生野銀山廻り」などをもとに設定した鉱山ゾーンの中から、「口銀谷地域」、「太盛地域」、「奥銀谷地域」、「金香瀬地域」の4地域と水路や堰堤などの景観構成要素を含めた南北約4km、東西約5kmの範囲を「重要文化的景観区域」として設定することとしています。

